

## 7/4 (土) 消防夏季点検・操法大会

運動公園において、「矢板市消防団夏季点検並びに第47回消防ポンプ操法競技会」が開催されました。初めに行われた点検では、団員の服装や機材の動作確認が行われ、その後は、消防ポンプ自動車操法の部と小型動力ポンプ操法の部に分かれて操法競技会が行われました。各分団とも、この日に合わせて早朝や夜間の練習を行ってきた技を競い合いました。

今年は、小型動力ポンプ操法の部に男女混合チームも出場するなど、新たな取り組みも行われました。



### 消防ポンプ自動車操法の部



**優勝** 第5分団第2部 (長井、寺山、高原)  
 出場選手/平山 雅史、土屋 健志朗、館脇 章郎  
 増子 敬俊、村上 大将

**準優勝** 第2分団第2部 (沢)  
**第3位** 第5分団第1部 (泉、上太田、東泉、田野原)

#### 操作員優秀賞

指揮者 平山 雅史 (第5分団第2部)  
 1番員 福田 行成 (第4分団第6部)  
 2番員 手塚 靖史 (第5分団第1部)  
 3番員 相澤 正広 (第2分団第2部)  
 4番員 村上 大将 (第5分団第2部)

### 小型動力ポンプ操法の部



**優勝** 第5分団第3部 (上・下伊佐野、第一農場)  
 出場選手/吉田 優一、格和 知弘  
 矢板 将大、吉田 智

**準優勝** 第3分団第2部 (通風、前岡、後岡、梶ヶ沢、山苗代、こぶし台)  
**第3位** 第4分団第5部 (塩田、片俣)

#### 操作員優秀賞

指揮者 齋藤 弘光 (第4分団第3部)  
 吉田 優一 (第5分団第3部)  
 1番員 森 一浩 (第4分団第2部)  
 2番員 漆原 信太郎 (第3分団第2部)  
 3番員 齋藤 豊 (第4分団第3部)  
 吉田 智 (第5分団第3部)

## 市民懇談会を開催しました

市内3会場で市民懇談会を開催しました。市民懇談会は、矢板市の将来を見据え、「こんな市になってもらいたい」など、まちづくりに関する構想や課題、市政運営に対するご意見、ご提言をいただきながら意見交換を行い、市民の皆さんと行政が力を合わせたまちづくりを推進するために行っているものです。

3会場合計で230名の方にご参加いただき、活発な意見交換、質疑応答などが行われました。まちづくりの参考となるご意見、ご提言を数多くいただき、とても有意義な会となりました。頂いたご意見の一部を下記で紹介すると

### 片岡会場 6月30日(火) 19:00~21:00 参加者81人

**Q:** 企業誘致を促進して、雇用の場をつくってほしい。そして、市財政を増やしてほしい。

**A:** 県と連携し、首都圏や関西圏の企業訪問を行っています。産業構造の変化に伴う工場の海外移転等により、厳しい状況が続いています。市内企業40社の代表者が委員となる「企業誘致戦略会議」を設置し、民間事業者の視点を取り入れた誘致活動を展開するとともに、市外からの誘致だけに頼るのではなく、市内における新産業の創出にも力を入れ、雇用の場と財源の確保に努めてまいります。

＜参加者アンケート結果より抜粋＞

- ・矢板に住んで矢板が大好きで何とかしなければいけないと考えておりましたが、このような機会に積極的に参加することが大切であると思いました。
- ・意外に活発だった。
- ・年に2回くらいやっても良いと思う。
- ・意見の吸い上げに、いい機会だと思います。地元の人熱い気持ちに触れられたこともよかったです。

ともに、市ホームページでも市民懇談会の様子をお知らせしています。ぜひご覧ください。

問い合わせ/秘書広報課 ☎(43) 3764

HP <http://www.city.yaita.tochigi.jp/>



### 泉会場 7月3日(金) 19:00~21:20 参加者64人

**Q:** ヒルクライムレースをもっと盛大に盛り上げてほしい。

**A:** 昨年度からこの泉地区で始まったヒルクライムレースですが、今年は8月9日(日)に行きます。昨年の反省を踏まえ、今年は泉中学校からスタート地点までパレードランを行って、地域の方たちに一体感を味わってもらおうと思っています。また、こういったイベントをうまく利用して、地場産品を販売するなど地域の方が恩恵を受けられるように考えていただければありがたいです。これは地域の方々の相談でできることだと思います。職員もプロジェクトチームを作りこの事業に取り組んでいますし、地域の方と一体となって盛り上げていきたいと考えています。



### 矢板会場 7月7日(火) 19:00~21:05 参加者85人

**Q:** 矢板市は塩野谷管内でも一番園芸の売り上げが低く、園芸農業が定着していません。稲作で利益を上げることは米価が下がっている現在限りがあり、園芸農業の振興にもう少し協力いただきたい。

**A:** 基本的には農業従事者がもう少し意識を変えて、「儲ける農業」「儲かる農業」をどうすればできるかを考え、発想の転換をしていかないと今の状況を打破することはできないと思います。今後、農業行政の中で園芸農業の振興をどうするかということも含めて農業のあり方を研究していかなければならないと考えており、実践者の方のいろんな思いやご提言、ご指導をいただきたいと思っております。



6/20 (土) 矢板の伝統文化とは

文化会館大ホールにおいて「伝統文化の集い」が開催されました。この集いは市在住、または出身の全国的にも著名な文化人たちの考え方に触れ、矢板の伝統文化について改めて考えることを目的として開催されたものです。

刀匠 加藤慎平氏の講演では「伝統を受け継ぎ次の世代へ伝えることの大切さ」などが話されました。その後は、宮大工 小川三夫氏と書家 柿沼翠流氏を交えて、これからの伝統文化や師匠についての話など、熱い対談が行われました。



6/21 (日) ふるさと創年大学開講

文化会館小ホールにおいて、ふるさと創年大学の開講式が行われました。初回となる今回は区長会との共催により、「安心のまち・元気なまちを創る」と題し講演会が行われました。講師にイムノエイト(株)谷口郁子氏を迎え、「商店街に薬局と介護支援所を開設したまちづくり構想」や長寿社会日本ならではの「65歳からの起業」などについて話されました。参加者からは、「少子高齢化が進む現在、地方のまちづくりについて新しい視点や切り口で考えたい」と感想がありました。



6/26 (金) 矢板の地酒で乾杯

道の駅やいたで、認定農業者会主催の地酒の試飲会が開催されました。市では、平成26年3月に「矢板市産の飲料の普及促進に関する条例」、いわゆる乾杯条例を制定し、地産地消の推進や郷土愛の醸成を図っています。君島会長からは「矢板市の活性化につなげたい」「6次産業化の必要性」などの話がありました。

その後は、森戸酒造、富川酒造から今年のお酒の出来の説明があり、早速乾杯に。参加した皆さんは「料理に合う」「お土産にしよう」などと話していました。



6/27 (土) お座敷列車にPR

28日(日)の両日、お座敷列車で栃木県内のご当地グルメを楽しむJR東日本のイベント「とちぎまんぷく列車」が運行されました。このイベントは、春の観光キャンペーンの締めくくりとして開催され、大宮から黒磯までの間の9駅に停車し、ご当地グルメや観光案内などでおもてなしを行うものです。

矢板駅では、約30分間停車し、特産のリンゴジュースや日本酒などが振る舞われました。参加者からは、「今度はリンゴ狩りに来たい」などの声があがりました。



7/4 (土) なんでも鑑定団収録

文化会館大ホールで、テレビ東京で放送されている「開運 なんでも鑑定団」の収録が行われました。この収録は、55周年を迎える矢板市商工会の記念行事として行われたものです。市内の方を中心とした6人の方が、自慢の一品を披露し、鑑定士の鑑定を受けました。本人の評価額より、鑑定額が上回った場合には、ともなりくんが登場し、特産のリンゴジュースが贈呈されました。約900人の方が観覧し、終始笑顔の収録になりました。

【収録した様子は7/28(火)に放送。再放送は未定】



7/7 (火) 七夕に交通安全を祈る

泉小学校で、交通安全集会が行われました。この行事は、矢板警察署や地域の皆さんなどが、子どもたちが事故に合わないよう願いを込め、毎年七夕の時期に併せて行われているものです。今年も例年通り大きな七夕飾りを正門前に立てることで、県道を通るドライバーに安全運転を呼び掛けています。

児童の皆さんは、「家族が無事に暮らせますように」「事故の無い世の中になってほしい」などの願いを短冊に託し、皆さんと一緒に飾り付けを行いました。



7/8 (水) 盆栽から心の教育を

矢板西小学校で、盆栽の挿し木教室が行われました。自然環境に恵まれた西小学校では、朝の活動に「みどりの時間」という時間を設け、木々と触れ合い、自然と共生する中で児童の心を養うことを目的とした教育を行っています。

この日は、「みどりの時間」に市の盆栽教室を行っている見形昭正先生と生徒3人が、児童に正しいサツキの植え方を教えました。見形先生は「植物を育てることでのいじめなどをしない優しい心を育ててほしい」と話していました。



7/10 (金) 結婚相談員を委嘱

きずな館で、矢板市結婚相談員への委嘱状の交付式が行われました。相談員の方には、独身男女の皆さんへの結婚に関する相談や出会いの場の創出などの業務を担ってもらいます。

今までも、やいた未来クラブの会員としてボランティア活動をしていましたが、この度、新たなメンバーを加えた22人に市から委嘱状を交付し、活動を強化していきます。前田光弘会長からは「矢板市の将来のためにますます力を尽くしていきたい」との話がありました。

